

# 地域計画策定、農委が推進役に

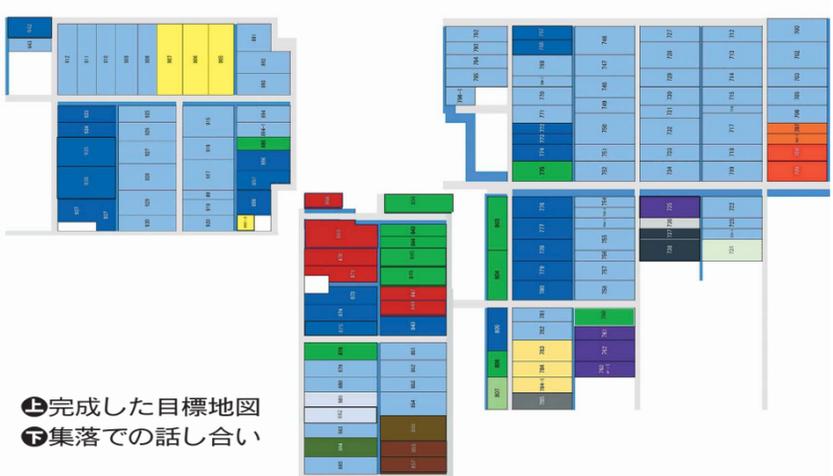
## タブレット導入が後押し

### 竜王町農業委員会

【滋賀】竜王町農業委員会(竹山勉会長)は、町や関係機関と連携し、多くの農業委員と農地利用最適化推進委員が中心となり、タブレット(現地確認アプリ)を活用して目標地図素案の作成に取り組んでいる。

2023年8月の総会では、同町農業振興課が地域計画を全委員に説明。農業委員・推進委員に地域計画策定の推進役となるよう要請した。同年9月の総会では、目標地図素案の作成方法について委員に説明した。

また、総会後には研修会を開き、タブレットの使用法や地図作成の方法を説明した。現状地図の作成は、タブレットで



①完成した目標地図  
②集落での話し合い

閲覧可能な農地台帳データを基本にエクセルなどで作成。目標地図素案は、現状地図をベースに各集落で話し合いを重ね、意向情報を整理したデータを作成し、作成済みの現状地図に反映する手順を進めた。

農業委員や推進委員が地域計画策定の推進役となることができたことについて、農業委員会事務局は「地域計画推進会議などに多くの委員が参画したことで、地域計画への理解と各地域での話し合いの活発化に向けた働きかけが機能した。また、タブレットを全委員に導入したことで、活用必要性が改めて認識されたことも後押しとなった」と話す。

昨年度中に地域計画の素案作成を五つの集落が完了し、残りの集落も本年度内の完成に向け、策定を進めている。

(中野剛)



## 秋の味覚を楽しむ「富有柿サイダー」

### まるやかな甘み、おいしいと話題に

### 五條市 堀内果実園



富有柿サイダーを手に堀内代表

【奈良】五條市の堀内果実園(堀内俊孝代表)が栽培している柿を使用した「富有柿サイダー」が、まるやかな甘みで秋の味覚を一年中楽しむことができ、おいしいと話題になっている。

共同で半年間もの商品開発を経て、2022年7月に販売を開始した。1本200ミリ、税込み216円で、堀内果実園奈良三条店や同社ホームページのオンラインショップ、泉屋などで販売している。

堀内代表は「富有柿の

独特の甘みを楽しみながら、日本を代表する柿の風味を国内外の人に体験してほしい。また、奈良県産の日本酒と割るのもおすすめなので、ぜひ試してほしい」と語る。

詳細は、ホームページ(<https://horuchi-fruit.jp>)を参照。

(木村将史)

### 長岡京市

## 子どもたちの農業体験を応援

### 奥海印寺農家組合 西代サポーターの会

【京都】長岡京市の西代里山公園は、京都縦貫自動車道の建設工事にあわせて整備され、8年前にオープン。園内には水田(農業体験農園)があり、「奥海印寺農家組合西代サポーターの会」(岡正樹会長)が、市内



の小学校や幼稚園の田植え体験や収穫体験の指導を行っている。

同会の岡会長は、昨年7月まで長岡京市農業委員会の会長として6年間、農業委員として15年

間活動し、市の農業振興に尽力してきた。奥海印寺地区の農業を次世代に継承するため、農家組合の仲間と食育活動に取り組んできた岡会長は「子どもたちに稲がどのように育つてお米になるかを学んでもらい、農業の楽しさを感じてもらいたい」と話した。

(長岡京市農業委員会)

## 青年奮闘中

### 丹波篠山市 石田友子さん

▷25

【兵庫】丹波篠山市の石田友子さん(41)は、今年4月に農業委員に就任。「丹波黒」(黒豆)などの生産と6次産業化に取り組むゆみたけの里舎で役員を務めている。石田さんは兵庫県三田市出身で、専業農家の

夫との結婚を機に農業を手伝うようになった。丹波篠山市は、黒豆・山の芋・丹波栗・丹波茶などがある。元町の「水曜市」への出



特産加工品を手に石田さん

現在、同社の加工部リーダーとして、黒豆の煮豆など地域の定番商品や、季節ごとに収穫された作物を自分たちの手で加工。子どもたちや消費者に「信頼できる商品」として、月に一度、神戸も商品を販売するなど、店や、大阪の土産物店でも「丹波篠山の味」を届け

「農業委員として遊休農地の解消や、地元の名産を活用し、丹波篠山の魅力発信にさらに取り組みたい」とさわやかな笑顔がこぼれた。

(山口昭彦)

## 地元産品の魅力発信したい

### 特産「丹波黒」の生産、6次化に力

### 近畿総局

京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入  
丁子風呂町104-2 府庁西別館内  
075-441-3660

滋賀県支局  
077-523-2439

大阪府支局  
06-6941-2701

兵庫県支局  
078-391-1221

奈良県支局  
0742-221101

和歌山県支局  
073-432-6114

### 第19回食育推進全国大会



府農業会議のブースでは大阪農業の魅力を紹介した

## 大阪で18年ぶりの開催

【大阪】大阪市住之江区の大阪南港 A.T.C.ホールで6月1、2日、「ワクワクEXPO with 第19回食育推進全国大会」が、18年ぶり

に開かれ、2日間で約3万人が来場した。当日は、大阪で生産された農林水産物と、それらを使った加工品「大阪産」を使用した事業者を

はじめ、食に関わる団体・企業・自治体など過去最多の185ブースが出展。各ブースでは、試食や試飲をはじめ、食品やグッズの販売、調理体験などの参加型企画を通じて、多くの来場者が楽しみながら食への理解を深めた。

会場内のステージでは、大阪産を使用したメニューコンテストなど食育をテーマとしたイベントも実施した。

大会には、府農業会議と府農業経営者会議も出展。農地が果たす多面的機能と農地を守る活動の紹介や、大阪の農業者が生産した農産物を展示し、その魅力を発信した。

(林佑一郎)